



## 『英語・ワープロ・インターネットと私』

SAM日本チャプター理事・広島支部長  
(株) ロジタント  
代表取締役 吉田 祐起

英語と言えばSAM本部のネイティブ言語。大した実力はないクセに、とは言いながら結構その語学力を有意義に活かしてきた私です。日本経済新聞社説「英語ができなければ国が危うい」(9年6月8日)の共鳴者でもある私です。

この分野では大ベテランの方々が多いSAMメンバーを前にちょっぴり気が引けるのですが、英語の大事さには一家言持つに至りました。

家庭の事情で定時制高校に学びながら職人人生を選択し、早くから自営業的活動をする中で、米国の新技術2つを文通で取得する一方、3つの実用新案を取得して、その開発商品販売促進で全国を講演・講習旅行して飛び回ったのがわが青春時代でした。

高校時代に英語弁論大会で優勝したのが縁で、結婚相手との遭遇を得、それが縁で転じたトラック運送事業経営者人生では、米国のあるフランチャイズ事業を導入したことも思い出です。

更に期するものを得て単身経営コンサルタントに転じ、ある規制緩和提言を開始、そのために単身40日間米国取材旅行をして、それに関連した提言論文の執筆を開始したのがワープロとの出会いでした。満61歳の手習いでした。

それから半年遅れで購入したのがIBMパソコ

ンでした。かれこれ半年以上もホコリをかぶったままのパソコンを横目に、慣れた専用機を駆使、ちょっとした故障がもとでパソコンのワープロへスイッチしたのが縁で、両手使いになりました。

念願のインターネットへのアクセスを果たし、「ISDNテレホーダイ」は不規則生活を理由に卒業し、NTTのOCN(Open Computer Network)で満足ってところですよ。ホームページは若干先送りです。

毎月の業界誌寄稿論文は勿論Eメールでワンタッチ。本誌前号の富国重道さんの「ユメのSOHOに」の真似事で醍醐味を味わっています。デスクの左に専用機、右にパソコンを配した様は、かの断筆宣言された筒井康隆さんの週刊誌写真記事そっくりだ、とニンマリです。

それにしても思い出すのは、かの「超・勉強法」の野口悠紀夫先生の弁、「ワープロ(ローマ字入力)と電子メールが出来れば、パソコン投資はOK」なる言葉を地で行ってマス。

本稿と同じタイトルで2時間の講演と1万字のエッセイを体験した私ですが、その中身のジマンの元はと言えば、満66歳のおジンであるが故の話題性ってところだろうな、と自身に言い聞かせているところです。